未来への伝承

第184回

昔の学用品と遊び道具

現在、上高津貝塚ふるさと歴史の広場では、テーマ展「謎解きタイムスリップ！　土浦三万年の旅」を開催しています。今回は、このテーマ展で展示されている明治時代から昭和時代にかけての学用品と遊び道具を紹介します。

今回紹介する資料は、平成23年度（2012）に実施された土浦小学校校舎建て替えにともなう発掘調査で出土したものです。江戸時代にこの地は土浦城西郭の一角で、武士の屋敷が立ち並んでおり、後に明治9（1876）年になって土浦小学校が開校しました。調査では、武家屋敷の建物基礎のほか、明治時代以後に埋められた堀の跡などが見つかりました。出土品は江戸時代だけでなく、明治時代以後の資料も多数発見されました。

紹介する資料の1点目は学用品の石盤（せきばん）と石筆（せきひつ）（写真下段右）です。これは、明治時代から昭和時代初期に当時の小学生が実際に使用していたものです。使い方は、鉛筆とノートのように、先生が黒板にチョークで書いた字を、石筆で石盤に書き写しました。実際の石筆には木製の柄を付け、石盤には周りに木枠をはめていました。石筆は滑石（かっせき）という柔らかな石材で、石盤は宮城県石巻市雄勝（おがち）でとれた粘板岩（スレート）という薄板状にはがれる材質の石でできています。紙が貴重だった時代、子どもたちは先生が書いた字を忘れないように、頑張って書き写していたのでしょう。

この石盤（写真上段左）をよく見ると、表面に飛行機が戦っている絵が彫られています。戦前には土浦に隣接する阿見町に霞ヶ浦海軍航空隊が置かれ、パイロットの養成が行われていました。ここで学んだパイロット候補生たちは、全国の少年たちの憧れの的でした。この石盤の持ち主もパイロットに憧れた1人だったのかもしれません。他の破片（写真上段右）には、川の流れと2軒の家が彫られています。

なお、石筆は現在もホームセンターの工具コーナーなどで販売されており、工事現場でコンクリートや鉄板などに字を書くのに使用されています。

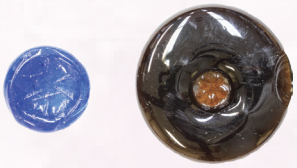
2点目は遊び道具の石けりガラス（写真下段左）で、昭和初期のものと考えられます。上から見ると円形で、中央がくぼみ、文様がスタンプされています。表面はつるつるして、丸く盛り上がるものもあります。裏側は平らでこすれたものもあり、子どもたちが使いながら地面にこすれた痕とみられます。

遊び方は地面に図形を描き、その中に石けりガラスを蹴り入れて遊びました。また、ボールのように蹴り合って競ったり、的に当てたりするほか、遊ぶルールや描く図形は、地方によって違いがあったようです。現在と比べて文房具も遊び道具も大きく異なっていますが、昔の小学生もこれらの道具で一生懸命勉強し、遊んでいたことでしょう。

今回紹介した資料は、上高津貝塚ふるさと歴史の広場特別展示室で9月3日（日）まで展示されています。ぜひご覧ください。

問 上高津貝塚ふるさと歴史の広場（☎826・7111）

石盤



石けりガラス

石筆（右端は現代の石筆）

※すべて土浦城跡西郭（現土浦小学校）から出土したものです。